

本県における雑草イネの春季の出芽動態及び 防除に有効な除草成分 (第1報)

1 背景・目的

雑草イネの発生が全国的に問題となっており、本県においてもいくつかの発生事例を確認している。雑草イネの多くは赤米で生産物に混入すると落等の原因となることから防除の徹底が必要であるが、その出芽動態や有効な除草成分について明らかになっていない。そこで本県における雑草イネの出芽動態や除草剤の効果について検討する。

2 技術のポイント

- (1) 雑草イネの種子は本県の気象条件では代かき後約 2 週間で出芽し (図1)、秋季(10月)より、春季(5月)に出芽率が高い(データ略)。
- (2) 雑草イネの防除に効果が認められた除草剤は初期剤ではプレチラクロール粒剤および乳剤、初中期一発剤では、フェノキサスルホン・プロモフチド・ベンズスルフロメチル粒剤、中期剤ではシメリン・フルセトスルフロロン・ベンフレセット粒剤である(表1)。
- (3) 雑草イネは一律に出芽しないため、除草剤の体系処理が発生の抑制に有効である。

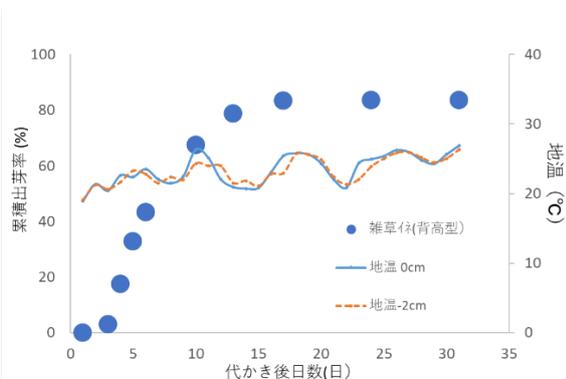


図1 雑草イネの出芽動態 (R1)

※出芽率は、種子を20°C3日間浸漬後、直径16cm金ガール土壌表面に100粒播種後、20mm深度で攪拌し、植代後(5/13)仮設置し、水稲移植後(5/16)圃場内に設置して調査した

表1 除草剤処理による雑草イネの残草割合

	5/30 (+14)		6/27(+42)	
	無処理 個体数	区対比 (%)	無処理 個体数	区対比 (%)
無処理区	78	100	90	100
体系 処理				
初期A (+0)→中期(+14)	71	91	0	0
初期B (+0)→中期(+14)	65	83	1	1
一発 (+0)→中期(+14)	73	94	0	0
初期A (+0)→一発(+10)	74	95	0	0
初期A(+0)→一発(+10)→中期(+20)	80	103	0	0

初期 A : プレチラクロール剤 (粒剤)
 初期 B : プレチラクロール剤 (乳剤)
 初中期一発 : フェノキサスルホン・プロモフチド・ベンズスルフロメチル粒剤
 中期剤 : シメリン・フルセトスルフロロン・ベンフレセット粒剤

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 出芽動態、除草効果は、2019年の気象条件による結果である。
- (2) 供試した除草剤は、雑草イネの発生前に高い除草効果を得られるが、第1葉抽出以降に効果はない。

問合先 : 作物栽培グループ TEL 076 - 257-6911
 担当者 : 島田雅博・吉藤昭紀

本研究は戦略的プロジェクト研究推進事業の支援を受けて行った。